

百人一笑

繪入

下





冬頃瘡疾我孫

瘡疾きのころとひびきしはしんりもひびきしはしんり

石原道飛足損

石原いしはらの道飛みちとび足損あしぞんひびきしはしんりもひびきしはしんり

禪師道道連母

うへつとれとせであつまひふびきしはしんり

大愚坊川創

大愚だのぐ坊川ぼうせん創なたしてはひびきしはしんりもひびきしはしんり



命いのち
かぶ



祈いのち禱たがひ
ここ子ご母ぼ
おお子ごをを
おおももつつ
おおんんがが
おおんんがが
おおんんがが
おおんんがが

胸花頻

たづみあつらんをきこつぬふさるぬり親の仇め

竜見土産見

有馬等もら病さ人殺のぞきおぼやうとまかどる

赤酒野門

石とほごのまん物と酒ひてかろげ井のさゆせろ

子頼返之

わろせて初野を乃の遠なれら酒とせだ幼女がまどろ

百人笑下

伊勢太丈

麻さり若持男け派系他ホクあね家又換ぬろり那

大将成徳

夜瓜あめいをもみまてくちぶぶ酒の大酒の園はあね

化行右丈見又

今いたせいも絶じ身上げ中ぶき紙子で買うしもろ

竹見之鬼有

あしぎん虫草の外れ地獄を鬼とて見味スともぐ那

新橋の
 川
 船



皆人系舟
 浅坊屋
 うらの
 女房
 右左衛門
 尾我
 了房



百人笑下三

指が

夏は岩ぬおをきたふも物な程のちあんとひのふぞ
酒酔熱難作山

徳とくに酒とあをふも山橋花より外に酔たをまぬる

吸茂

春の夜を愛むらうら小賞酒のわなたらんを早はれ

産物之人

若しそあてうら子をたがふは嬉しうらぶ夜半は産か

農人同士

おしはら葉たひらうらうらや田の面あまはり

あ眼腎

さびしゆ山をまをたがむしきぶつとるを青首の扱

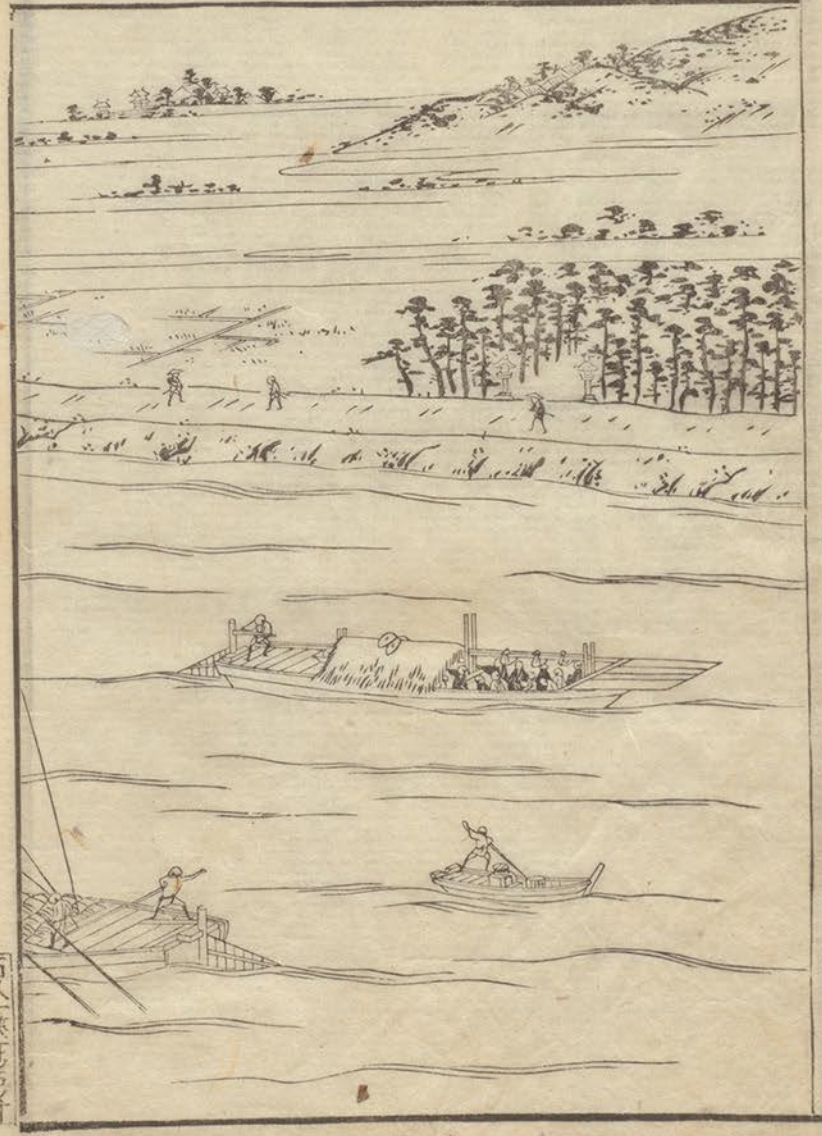
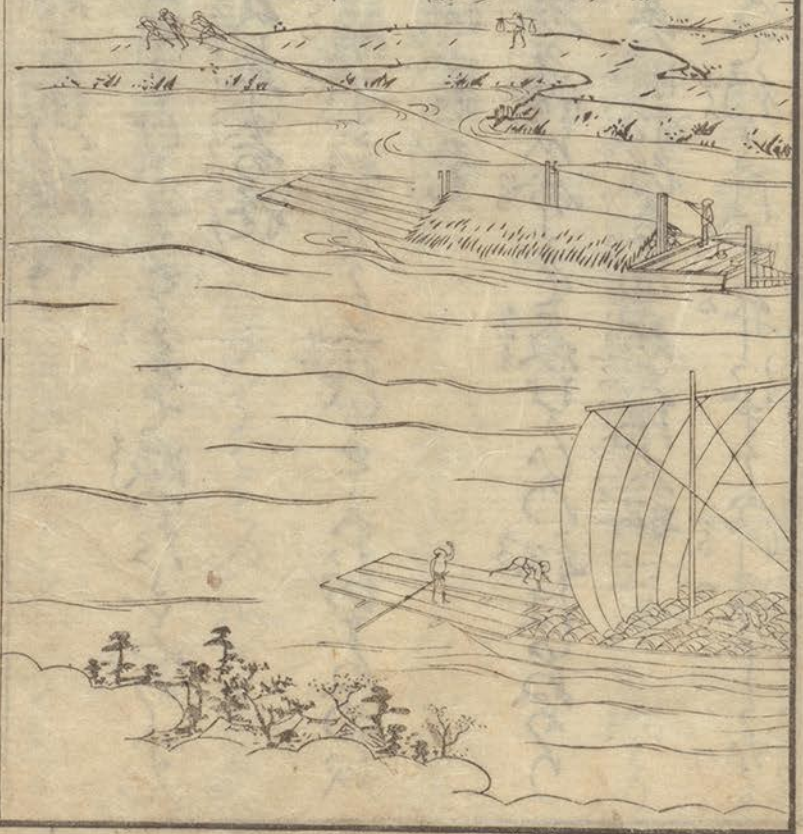
大非人愁寒

夕ぐひし夜の荒おらづきて星のまにほで雪風どろく

鐘投引

秋辺とちほくおとそと二舟の種ねも末あつた物とら

舟車
 之幸働
 引お
 誘たきく
 濱の川
 あげ乃
 船
 みるや
 繩の
 引も
 こそ



百人笑下屋

強忠右衛門 伝持

精者とのまきあがうげふなりとまきて腹のたごめがん
皆古年寄抱

うろりたる作ら巖平とめくろりの元いまふためすぬおん

松後家忠

只どり志鬼塚が清江命と夜びひり松はあかり

十有矣時松改義由武大風大松

蒼海吹流うまて初りけし井はまぐり沖深しうか

皆人産蔭

命まのける大腰投声は福の負かすお撲の園より

花京大佛作向

あきれ志おのりて窓のわびごり光のまじりる教の巻を

大希有仙人慕恋歌者

長うん命を授け氣をたに礼あてをその狐かのみ免

子芸大幸可也人

才坊まがたつらうはがなをいひ只菓子のをせし紙だのこまる



江人法師

あひまびこそ命はありのまはにほは念佛がうけ
廣大虚空花の流里

夜の中よたごときひんまりん天の川を聖れがなる

寒拙者着捕給

冬氣ははらひ見志のまきしとせし果ぞ今もあき

順礼多

衆もご極あぞむる知智の奇能のまき志まきなるり

書着用子

かひけえ月夜におかさまつめを教る我月儀り那

若年態

一夏乃病者羊世にけらむむれ之立のやうなまこれ定

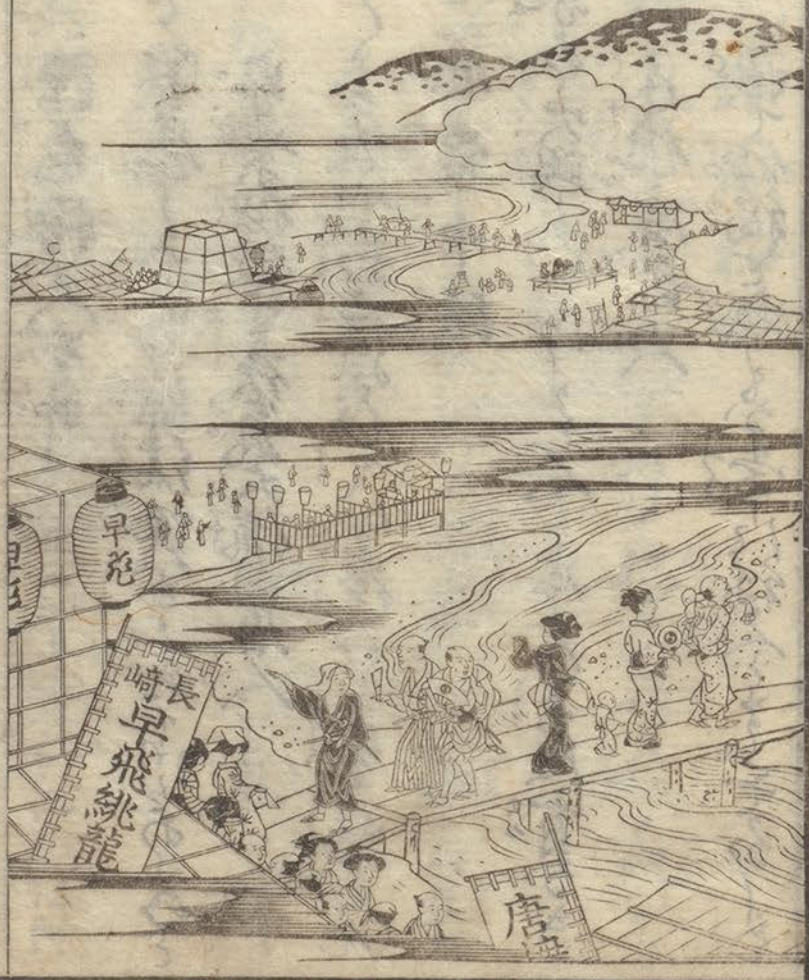
婿嫁貧人一統

みどりま残を飯後を二夜は分をつして世はつらねる

食事至心悩

王のまを絶がたえの母はまをのまにらりりぞとる

夏の涼
なり
なる



作山火の涼
風そよぐ

小川の
夕涼
さぞ
そよぐ



陰包悟人を師

足指なる尻すくもあげ緋緒酒をどねる川あゝひと
家業極救生夜氣大捕回居人

くいつくともくも夜はじむは鏡ひて飛を鴨えん
非常中騒

我小家あ火興あきけりも人とあゝひるは骨かさ
と枕虚乱人

世の中に寝ては福と我もか常に縁人ともぞぞり

難儀祐經

汚物野乃富まをを世にけり仇との津まを討り

他大成就酒宴

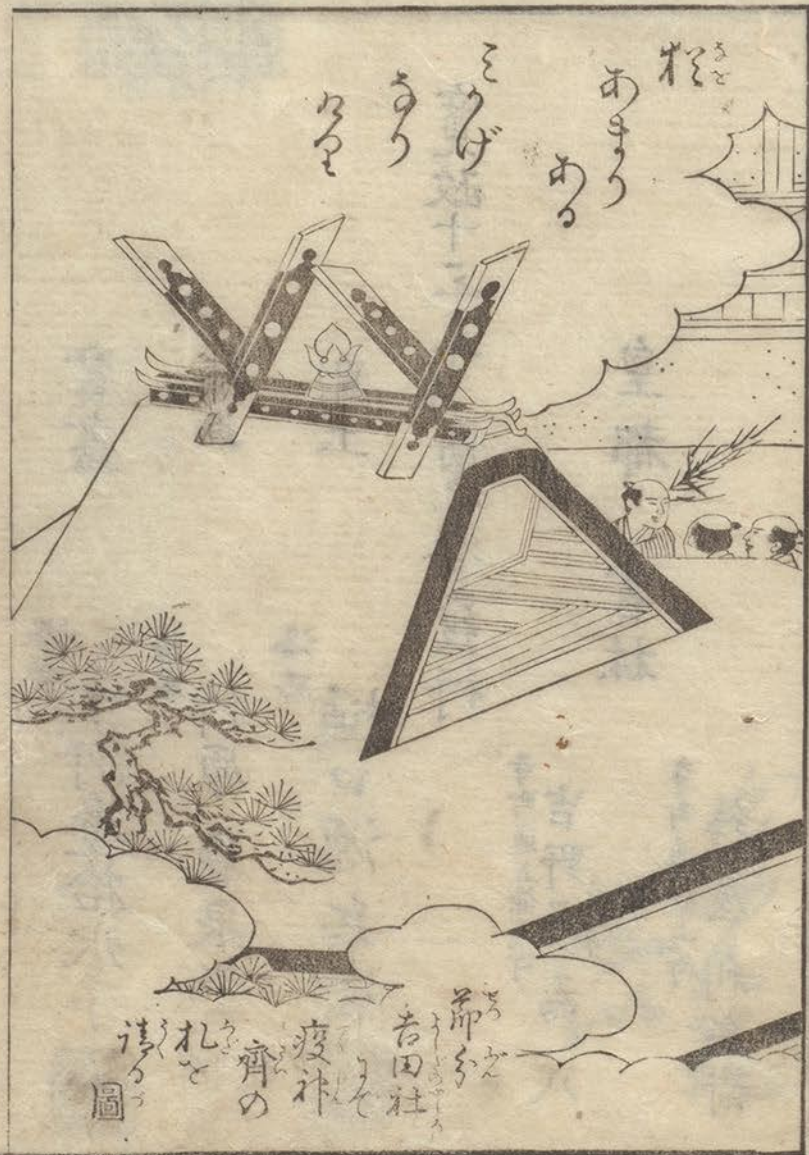
大きな目も朝そぞ祝ふけり建家に任神を目で

今朝火難去家

此知子瓜中かひいづる夕火のよや家のもも氣をわれつ

卒都婆下

人を金つる卒都婆あまきる世のあまのい鉢陀



跡見学園女子大学短期大学部図書館
03(3943)1968



1001655776

書畫

洛西

下河邊拾水子



補画

浪華

竹原春泉齋



彫工

洛西

樋口源兵衛



寛政十三年^{辛酉}之春發行



寺町通五條上町

吉野屋為八

皇都書林

寺町通四條上町

錢屋利兵衛

百人笑下士終

如野人院
也

